

校訓	真 善 美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年7月11日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 —認め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる—	「荒中だより」 7月 文月 第8号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

「伊丹市総合体育大会」を終えて

朝、起きると外から蝉の鳴き声が聞こえました。空を見上げると、青く晴れた空に白い雲が映え、いよいよ本格的に夏が始まったなと感じた瞬間でした。1学期も残すところ1週間となり、学期のまとめとして三者懇談が始まりました。

6月21日(土)～7月6日(日)まで、市内各会場において、『総合体育大会』の熱戦が繰り広げられました。私も可能な限り会場に足を運び、選手の皆さんが試合に打ち込む姿を間近で見て、声援を送りました。シュートを決めて喜びを爆発させる姿、ボールがつながらず悔しがる姿、仲間を必死に応援する姿、接戦を制し、感極まって涙する姿、惜敗の末に涙する姿など、**懸命に取り組む皆さんの姿から多くの感動と勇気**をいただきました。そして、試合が終わった後の涙や、清々しい表情からは、重ねた日々の努力や熱い思いが感じられ、胸がいっぱいになりました。

メジャーリーガーの大谷翔平選手は、昨年度、MVPを受賞した際のインタビューで「チームメイトがいなければこの賞は得られなかった」と語るなど、常々、チームメイトやスタッフ、



家族などの**周囲の支えがあってこそ、今の自分がある**と語っています。また、桑原晃弥氏による著書の中でも、大谷選手の「一人でできることは限られている。だからこそ、人に感謝する気持ちはずっと持ち続けたい」との言葉が紹介されています。

総体を終えた3年生の皆さん、お疲れ様でした。これまでには、うれしいことや楽しいことばかりでなく、苦しいことやつらいこともたくさんあったと思います。それを乗り越え今の姿があるのは、自らの力だけでなく周囲の人の支えがあったからです。そのことへの**感謝の気持ちを忘れない**でください。そして、部活動を通して得たことをこれからの生活に活かしてください。**保護者の皆さま、各会場でのたくさんの熱く温かいご声援ありがとうございました。**

まだ総体が続く皆さん、次のステージでのさらなる飛躍を祈っています。

伊丹市総合体育大会成績報告

優 勝 バレーボール男子、バドミントン女子

3 位 サッカー、バスケット女子、卓球男子

<バドミントン>

女子シングルス 1位 中川 咲優 2位 真栄田 明華里

女子ダブルス 1位 武内 莉子・下脇 光

2位 本田 天希・相原 花

3位 倉橋 かりな・日下部 薫蓮 / 崎田 佳奈・小林 愛奈

男子ダブルス 3位 橋間 幸洋・南 侑輝

<陸上>

3年女子 100m 1位 伊藤 乃衣 1年女子 100m 3位 伊藤 志帆



～地域とともにある学校として～

7月10日(木)に第2回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会というのは、地域住民の方や保護者の代表の方、地域の小学校や公共施設、団体等の方などを委員として、荒牧中学校がよりよい学校となるための協議をしたり、意見をいただいたりするものです。この仕組みは、学校と地域、保護者の三者が力を合わせて協働し、学校や地域における課題の改善を図ることを目指しています。

今回は、荒牧中学校の様子をよりわかっていただくために、授業を参観していただきました。校舎内を見られた感想として、「落ち着いた様子で授業を受けられていた」「どの教室も楽しそうに学習していて、昨年度に見たときから成長を感じた」「タブレットの活用や英語科のグループでのやりとりなど、新しい工夫がなされていた」といった、生徒の皆さんや先生方の頑張りに対して、たくさんよい意見をいただきました。また、「階段の隅まで掃除が行き届いていて、とてもきれいだった」という言葉もいただきました。日々の皆さんの授業や清掃活動が評価され、たいへんうれしく思いました。皆さんの成長が感じられた一コマでした。

誰もが居心地よく、活躍できる学校を創ろう!!